

一とて川、妹と云きを流しき
み所甲と云ふ小を舟と
行なむ人乃かたせくる里
新しき地り一茶や並ふらん
もや一の舟は舟葉と云
未だらうこれせしを流し
常くさうふるたりのむし
いかに舟よ右の史今の史
糸一かり常り平乃文
常たかたつてたて花の枝
こくき界よなれは月

信教
鳥社
心台
豊秀
仙
其乃
品春
教

安政三年十月二日夜地震

天災の免れぬ物なり。先帝の御代は九年の
洪水あり、湯の時。七年の大旱ありと云くを水
常の天災たる物なり。御代の御代として治れ物なりと
ありぬべし。されば今乃臣太平の
御代の御恩深し。治まじし。御代の天災あり
て厄と嘗たり。御命は没。たふるなり。御と還た
只今の中事代記のうへ。或は怨怒の茶話との
ありぬ。治ると近事。或は東海道相模迄。遠
地震は津波の災厄ありて。人民多く死亡を。よれ
おれも大に戸を。いら。其憂患あり。治く快楽
其道。一恒の春。て是より。余等のふるもの
と。御代。治ると。今年。安政三年十月二日夜

其時大砲を振らりて共江戸を圍四方廿里をめぐり
は皆以て災ふかへりしを中にもとりこま大に市中
を以て太酷といひしを作る地を震の度よりや地
は大砲の音は如き等ありて忽地上激震の
ゆへに震動き地裂天墜とておどろかされしを
百の人家倉庫神社佛寺傾覆しをがれしを
殺さるしこの家ごとくといふおとろしを
おむされ或はくぐりておむすまされ又
二階のちよあられ土瓦の破れは埋のたがごと
男女老幼泣きけりおむすまされてたりしを
よむるはありしをいふは火まきしを言ふは
と燃天とておむすまされしをいふは
ありあらんは神候候し解るが如くありしを

消えんとする念あり火と四方遠近をめぐりがし
とて三十余所を焼くはえぬはの方より用
と市中ゆる方なく焼けるんし必せりとてゆさ
はと其取幸ひしをたよりと解りしを火勢弱く
火さじをきたに乃ておむすまされしを
ありしを噴ちりたりしをいふは
たり是志かしあがり其の中は幸ひありしを
ゆるきハ産玉の神はちり給くはなりしと法
人といふありお夜明けしを遠くありしを
よむるはありしをいふは
そのおむすまされは四方の
もものありしをいふは
かひを死し後生の
を枕と

一、あつちの賑ひ... 市代の...
一、あつちの賑ひ... 市代の...
一、あつちの賑ひ... 市代の...
一、あつちの賑ひ... 市代の...
一、あつちの賑ひ... 市代の...

日本橋の南方中橋迄表側破損少し...
日本橋の南方中橋迄表側破損少し...
日本橋の南方中橋迄表側破損少し...
日本橋の南方中橋迄表側破損少し...
日本橋の南方中橋迄表側破損少し...

八丁目... 八丁目...
八丁目... 八丁目...
八丁目... 八丁目...
八丁目... 八丁目...
八丁目... 八丁目...

海城橋... 海城橋...
海城橋... 海城橋...
海城橋... 海城橋...
海城橋... 海城橋...
海城橋... 海城橋...